

2024年7月1日

各 位

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

2024年 6月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	135.7
阪神梅田本店	108.4
支店計	115.5
全店計	125.5

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- 全国的に梅雨入りが遅れ、真夏日が昨年よりも多いこともあり、都心店を中心に盛夏ファッションが活況で、全店売上高は前年に対して約3割増と実績を大きく上回る結果。中でも、免税売上高の伸長もあり阪急本店と博多阪急が全体を牽引。
- 6月に入り、各店の店頭で順次お中元ギフトセンターを開設。ビール、飲料等の定番商品が堅調な中、特にアイスクリーム等暑い夏を意識された商品が前年以上に伸長。また送料込みの産地直送ギフトも前年を上回り、全体として前年並みの売上で推移。
- 免税売上高は前年に対して約2.7倍、阪急本店も約2.7倍と引き続き好調で、同月の売上高では13ヶ月連続で過去最高を更新。

○ 阪急本店の概況

- 6ヶ月連続で、同月の売上高において過去最高を更新。
- 今月もインバウンドのお客様による売上の押し上げ効果もあり、婦人・紳士ファッションの売上高は前年に対して2割を上回る高い伸びを示した。特にアクセサリやバッグ、化粧品、インターナショナルファッション、宝飾品、時計、紳士ファッションの店頭売上高は前年の3割を上回る伸長率で牽引。夏の実需アイテムとして、婦人服ではブラウスやドレス、服飾雑貨ではパラソルやサングラス、帽子、サンダル、紳士ファッションではTシャツやカジュアルシャツなど軽衣料が好調。
- 100万円以上の高額品の売上高は、前年の約4割増と引き続き高い伸びを示した。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2023年度									2024年度			
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
阪急本店	118.8	115.9	125.9	126.1	116.7	116.1	115.1	120.2	132.0	130.0	129.6	146.1	135.7
阪神梅田本店	107.9	118.0	133.5	158.3	104.4	150.0	111.9	117.6	119.1	107.0	105.8	108.8	108.4
支店計	109.6	114.9	118.4	116.3	110.8	112.0	108.5	110.0	115.5	111.4	110.4	112.0	115.5
全店計	114.1	115.8	123.8	126.3	113.2	118.0	112.3	116.0	124.5	119.9	119.9	129.1	125.5

■ 食品事業

イズミヤ・阪急オアシス	売上高前年比(%)
全店計	101.4

関西スーパーマーケット	売上高前年比(%)
全店計	100.0

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問い合わせ先>
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181